

トラック輸送情報（平成27年8月分）

平成27年11月4日

総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室

担当：廣中、桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

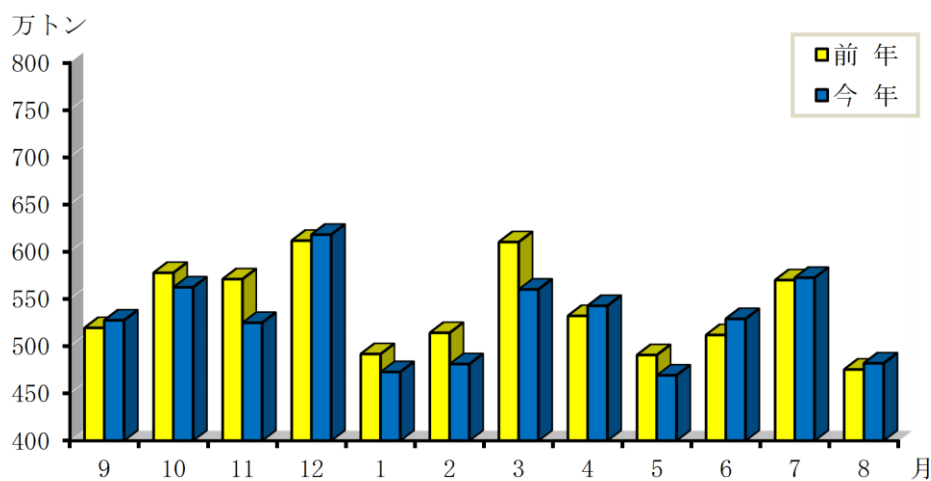
(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、4,820,532トンで、前月と比べ総輸送量が約904千トン減少したため、前月比84.2%（季節調整済み101.0%）となり、前年同月との比較では、約66千トン増加したため、前年同月比101.4%の実績であった。

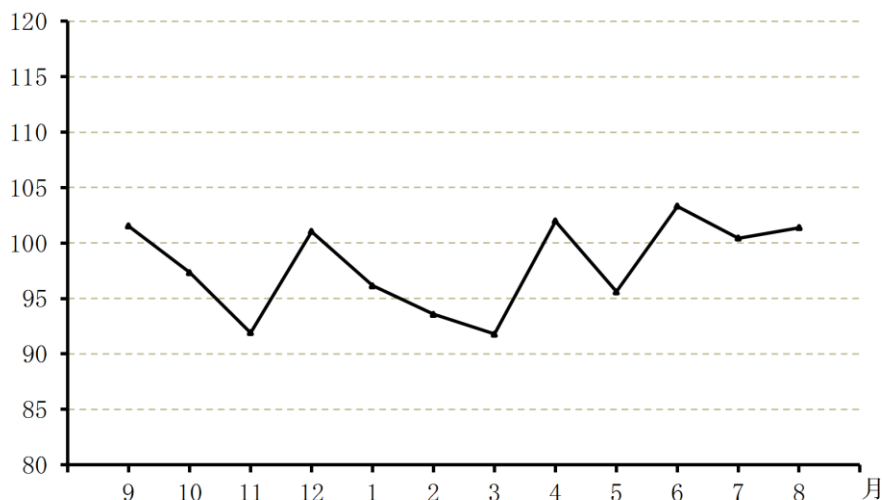
なお、平均稼働日数は23.0日で、前月と比べ2.3日減少し、前年同月との比較では、0.5日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、209,588トンで、前月と比べ約17千トン減少したため、前月比92.6%となり、前年同月との比較では、約2千トン減少したため、前年同月比99.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 輸送トン数の推移



(図1-2) 輸送トン数の前年同月比

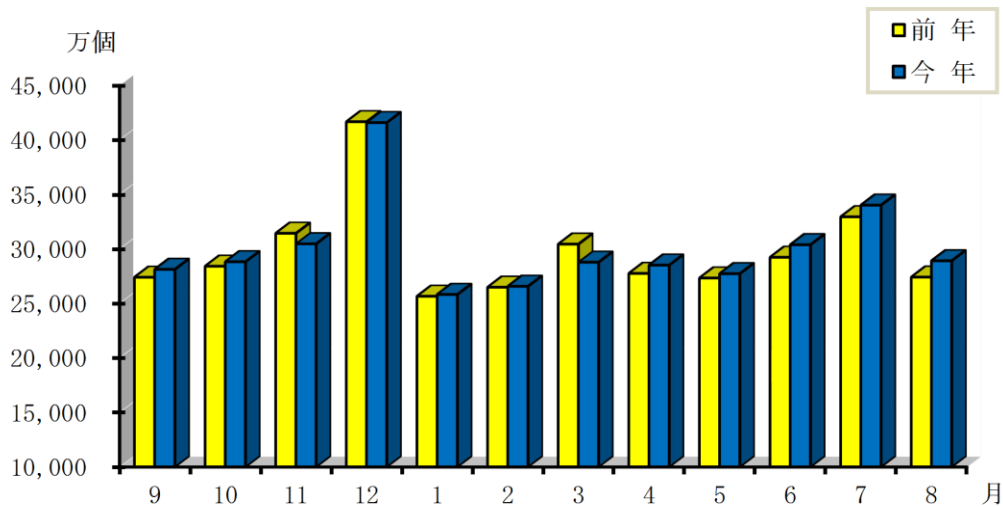


(2) 宅配便の概況

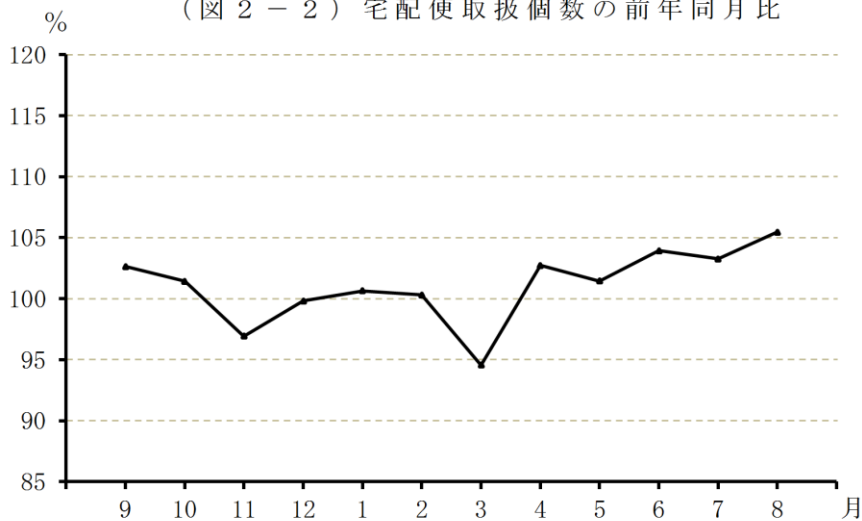
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 289,224 千個で、前月と比べ 約 51,018 千個減少したため、前月比 85.0% (季節調整済み 103.4%) となり、前年同月との比較では、約 14,969 千個増加したため、前年同月比 105.5%の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その減少要因としては、工場・生産地からの貨物減であった。また、倉庫から出る貨物減が「化学工業品」及び「食料工業品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で減少したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、「機械」で輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「化学工業品」で輸送量が減少したと回答する事業者があり、その主な減少地域は「関東」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	変 増	ら 減	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		1	11	3	3			
	金属製品				13	7			
	機械		2	7	9	1	機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	化学工業品		1	8	12		合成樹脂	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品		1	13	6			関東、中部、中国	4
	食料工業品		1	8	9	1	その他の食料工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	日用品		1	8	12		その他の日用品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	その他	2		10	8	1	宅配便		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	13	3				
	金属製品				17	3			
	機械		4	12	3				
	化学工業品		3	12	6		その他の化学工業品	関東	
	繊維工業品		1	15	5				
	食料工業品		2	14	3				
	日用品		1	15	5			関東	
	その他	1	3	13	4				

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 817 社/調査対象事業者数 1,004 社)の輸送量は、前月比 92.8%、前年同月比 100.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.0 %	101.5 %	101.3 %	100.0 %	91.3 %	101.5 %	99.0 %	105.5 %	105.5 %	95.7 %	91.8 %	
前 月 比	92.8 %	99.3 %	90.7 %	86.9 %	88.3 %	88.6 %	90.3 %	97.7 %	94.4 %	89.7 %	91.1 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比99.3%、対前年同月比101.5%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「その他の石油製品」が、工場・生産地からの貨物増により「野菜・果物」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「動植物性飼・肥料」が、また、「木材」及び「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比90.7%、対前年同月比101.3%であった。品目別では、季節的需要減により「食料工業品」及び「その他の製造工業品」が、企業のお盆休みの影響による貨物減により「食料工業品」、「セメント」及び「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予測される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比86.9%、対前年同月比100.0%であった。品目別では、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比88.3%、対前年同月比91.3%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」が、また、「木材」、「揮発油」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「穀物」、「金属製品」及び「化学肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比88.6%、対前年同月比101.5%であった。品目別では、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比90.3%、対前年同月比99.0%であった。品目別では、季節的需要減により「機械」及び「食料工業品」が、また、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降は増加傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比97.7%、対前年同月比105.5%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「機械」が、また、「木材」、「砂利・砂・石材」、「その他の化学工業品」、「紙・パルプ」及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比94.4%、対前年同月比105.5%であった。品目別では、「化学肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」及び「食料工業品」が、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」及び「紙・パルプ」が、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「機械」及び「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比89.7%、対前年同月比95.7%であった。品目別では、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、天候の影響により「野菜・果物」が、季節的需要減により「その他の化学工業品」及び「食料工業品」が、また、「金属製品」、「機械」、「セメント」、「紙・パルプ」及び「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比91.1%、対前年同月比91.8%であった。品目別では、「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	5	2						1			8
	減	1	2		2					1		6
2. 野菜・果物	増	5	2				1	4		2		14
	減	1	2		1				5	3		12
3. その他の農産品	増	1										1
	減		1			1	1		1		1	5
4. 畜産品	増	1	1							1		3
	減									1		1
5. 水産品	増	1	1							1		3
	減		1					1	1	3		6
6. 木材	増	1			3				3	1	1	9
	減	3	1					2	2	2	1	11
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1										1
	減	2										2
9. 金属鉱物	増							1				1
	減		2									2
10. 砂利・砂・石材	増	8								2		10
	減	7				1		3	2	4		17
11. 工業用非金属鉱物	増	1				1						2
	減	2	2					1	2			7
12. 鉄鋼	増				2					3	2	7
	減		1	1	3				5	3		13
13. 非鉄金属	増										1	1
	減		1				1					2
14. 金属製品	増				1					1	1	3
	減		1		4			1	2	3		11
15. 機械	増			2				1		1	1	5
	減		1		1	3	3	5	3	4		20
16. セメント	増	3			1			1		1		6
	減	2	3		1			2	2	4		14
17. その他の窯業品	増				2	1				2		5
	減	1	2		1				1	1		6

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増				2			1	1			4
	減		1									1
19.その他の石油製品	増	3	1		1			1	1			7
	減	1			1			2	1			5
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増		1						1			2
	減				1				2	1		4
22.化 学 肥 料	増	1							2			3
	減				2					1		3
23.その他の化学工業品	増											
	減		1		1	1	1	3	1	2		10
24.紙 ・ パ ル プ	増		1		1		1		1			4
	減	2	3				1	2	2	2	1	13
25.織 維 工 業 品	増	1	1							1		3
	減		1						1			2
26.食 料 工 業 品	増	1	3	2	4		1	1	4	4		20
	減	2	9	1	1		4	3	6	8		34
27.日 用 品	増			1	2			1	1			5
	減	1					1	1	1	2	1	7
28.その他の製造工業品	増		1					1		1		3
	減	1	3				2		1	2		9
29.金 属 く ず	増											
	減							1		1	1	3
30.その他のくずもの	増											
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	2	1							2		5
	減	5	1							3		9
32.廃 棄 物	増	2	1					1	1			5
	減		2			1				1		4
33.輸 送 用 容 器	増											
	減	1	1		1				1			4
34.取 り 合 せ 品	増									1		1
	減		1								2	3
35.そ の 他	増		3		1		2	2	2	2	1	13
	減	1	4	1	3	1	7	11	1	8	2	39